

学会員 (教員) 研究動向 [2012.4 ~ 2013.3]

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
赤井 正二	論文(単著)	「旅行ガイドブックと旅行の「質」」(浪田陽子・福岡良明編『はじめてのメディア研究』, 世界思想社) 258-265頁	2012.4
秋葉 武	論文(共著)	「日本の共済協同組合の歴史」(中川雄一郎・杉本貴志編『協同組合を学ぶ』, 日本経済評論社) 119-140頁	2012.5
	論文(単著)	「アジア・オセアニアの協同組合」, 前掲書, 154-158頁	2012.5
	書評(単著)	「書評: 岩根邦雄著『生活クラブという生き方』, 大田出版」(『協同組合研究』32巻1号, 日本共同組合学会) 121-123頁	2012.12
	研究発表等 (単独)	「韓国の市民社会と協同組合」(協同組合研究会, 於: 全労済協会)	2012.6
	研究発表等 (単独)	「日本の共済—その特徴と課題」(第5回労働者共済運動研究会, 於: 全労済協会)	2012.6
	研究発表等 (単独)	「生協と産地の地域再生—事業連帯の可能性」(くらしと協同の研究所総会シンポジウム, 於: コーポイン京都)	2012.6
	研究発表等 (単独)	「日韓の社会的企業から考える」(大人の学校2012, 於: 埼玉県越谷市男女共同参画支援センター)	2012.6
	研究発表等 (単独)	「NGOとステークホルダーの連携」(外務省 NGO 研究会公開シンポジウム「大学と NGO の連携」, 於: 大学コンソーシアム大阪)	2013.2
	研究発表等 (単独)	「韓国の社会的企業政治と市民社会」(日本 NPO 学会第15回年次大会, 於: 東洋大学白山キャンパス)	2013.3
荒木 穂積	著書(共編著)	“The Current State of Children with Autism Spectrum Disorder and Their Families in The East Asia”, Nguyen Thi Hoang Yen, Huang Xin Yin, Research for Collaboration Model of Human Services 9, Institute of Human Science, Ritsumeikan University. 217page.	2013.3
	論文(単著)	「障害児教育の研究および教員養成における日本とベトナムの協力の経験とその展望」(『日本ベトナム障害児教育・福祉研究』第10号, 文理閣) 33-38頁	2012.8
	論文(共著)	「キューバ・ハバナにおける障害児教育の実情」(黒田学・小西 豊ほか『総合社会福祉研究』第41号, 総合社会福祉研究所) 104-115頁	2012.12
	論文(共著)	「自閉症スペクトラム児における象徴機能と遊びの発達—ごっこ遊びから役割遊びへの発達過程の検討」(荒井庸子『立命館人間科学研究』, 立命館大学人間科学研究所, 第28号) 47-62頁	2013.3
	研究発表等 (共同)	「ベトナム」(「特別ニーズ教育の国際比較研究 その1—ロシア・モンゴル・ベトナム・キューバ」)(日本特殊教育学会第50回大会: 自主企画シンポジウム・企画者黒田学, 於: 筑波大学)	2012.9
	研究発表等 (共同)	「発達障害をもつ子どもの親の障害受容プロセスの検討—ナラティブ分析とライフラインメソッド—」(荒木美知子・竹内謙彰, 対人援助学会第4回年次大会: 企画ワークショップ, 於: 神奈川県立保健福祉大学)	2012.8
	研究発表等 (共同)	「東アジアにおける自閉症スペクトラム児の親のニーズに関する比較研究(5)—中国(蘇州市)における学齢児の親の分析から—」(荒木美知子ほか, 第24回日本発達心理学会, 於: 明治学院大学・白銀キャンパス)	2013.3
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の遊びと集団活動を援助する療育プログラム開発(1)~(3)」(竹内謙彰・佐々木幸子ほか, 第24回日本発達心理学会, 於: 明治学院大学・白銀キャンパス)	2013.3

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
栗谷 佳司	著書(共編著)	『グローバル・コミュニケーション』(伊藤陽一ほか編著、ミネルヴァ書房)全216頁	2013.3
	論文(単著)	「音楽空間論—「ユーザー」と限界芸術論から考える」(浪田・福岡編『はじめてのメディア研究』,世界思想社)243-249頁	2012.4
	論文(単著)	「戦後日本の知識人と音楽文化—鶴見俊輔,フォーク音楽,限界芸術論をめぐって」(『立命館産業社会論集』48巻2号)95-110頁	2012.9
	研究発表等 (パネリスト等)	「ラウンドテーブル 震災と舞踊」(舞踊学会第17回定例研究会(春季特別大会),於:立命館大学)	2012.6
	研究発表等 (司会・パネリスト等)	「音楽文化の歴史社会学—知識人・大衆文化・社会運動」(日本ポピュラー音楽学会2012年度大会ワークショップ,於:武蔵大学)	2012.12
飯田 豊	論文(単著)	「マクルーハン,環境芸術,大阪万博—60年代日本の美術評論におけるマクルーハン受容」(『立命館産業社会論集』48巻4号)103-122頁	2013.3
	その他(単著)	「拡張現実の時代におけるプロシューマー論の射程—宇野常寛+濱野智史『希望論—2010年代の文化と社会』」(『10+1 web site— http://10plus1.jp/monthly/2012/06/20102012.php 特集:書物のなかの震災と復興,2012年6月号)	2012.6
石倉 康次	著書(共著)	『福祉論研究の地平 論点と再構築』(河合克義・唐鎌直義・小賀久ほか,「社会福祉事業体をめぐる諸論点」,法律文化社)183-212頁	2012.9
	訳書(監訳)	『ソーシャルワークの復権』(市井吉興監訳,イアン・ファーガスン著,クリエイツかもがわ)全269頁	2012.5
	論文(単著)	「もうやめるべき「人権意識調査」2010年度版大阪府「人権問題に関する府民意識調査」の検討」(『民主と人権』100号,民主主義と人権を守る府民連合)1-15頁	2012.9
	調査報告書 (共著)	『東日本大震災以降の福島県の保育所及び学童保育所労働者の労働と意識に関する調査報告書』(「東日本大震災以降の福島県の保育所及び学童保育所労働者の労働と意識に関する調査」実行委員会)	2013.3
	調査報告書 (共著)	『福祉・介護事業所の経営実態と労働環境調査報告書(平成24年度)』(京都府社会福祉協議会 京都府福祉人材・研修センター)	2013.3
	その他(単著)	『真田是著作集 全5巻』(「刊行のことば」「民間社会福祉論 解題」「部落問題論 解題」,福祉のひろば)	2012.6
	石田 智巳	論文(単著)	「運動的認識の発達に関する研究—小学校4年生と6年生の感想文の分析を通して」(『立命館産業社会論集』48巻2号)111-130頁
論文(単著)	「体育授業研究の新たな方法の構築を目指して—子どもの事実を捉える工夫」(『たのしい体育・スポーツ』266号,学校体育研究同志会)18-23頁	2012.11	
市井 吉興	訳書(共訳)	『ソーシャルワークの復権』(石倉康次監訳,イアン・ファーガスン著,クリエイツかもがわ)全269頁	2012.5
	翻訳(単訳)	ヴォルフラム・マンツェンライター著「スポーツ用品産業におけるグローバルなプロダクションネットワーク,新たな国際的分業,そして,近年の東アジアでの展開について」(『立命館産業社会論集』48巻4号)189-210頁	2013.3
伊藤 隆司	論文(単著)	「あまきみこの「白いぼうし」と教科書」(『語り合う文学教育』11号,語り合う文学教育の会)26-33頁	2013.3
伊東 寿泰	論文(単著)	「英語圏における文学批評の動向:ヨハネ福音書研究を中心として」(『福音と世界』67巻7号,新教出版)31-37頁	2012.6

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
乾 亨	論文(単著)	「『生き延びるための地域コミュニティ』を育む行政の立位置」(『第74回全国都市問題会議・都市の連携と新しい公共』, 全国市長会) 140-146頁	2012.10
井上 雅彦	論文(単著)	「一般大学教職課程における「経験されたカリキュラム」の考察—教職大学院カリキュラムとの連携に向けて」(『京都教育大学教育実践研究紀要』第13号, 京都教育大学附属教育実践総合センター) 250-261頁	2013. 2
	論文(共著)	「教職大学院教育の成果検証によるカリキュラム改革, 授業改善の課題—京都連合教職大学院「教職専門基準」の観点からの試み」(井上雅彦・高乗秀明ほか, 『京都教育大学大学院連合教職実践研究科年報』第2号, 京都教育大学大学院連合教職実践研究科) 76-89頁	2013. 3
	研究発表等(共同)	「『専門職基準』を基軸とした教職大学院のカリキュラム改革の構想と方途—「大学院知」と「フォローアップ・FD活動」を手がかりとして」(井上雅彦・高乗秀明ほか, 平成24年度日本教育大学協会研究集会, 於: かがしま県民交流センター)	2012.10
文 楚雄	著書(共著)	『よくわかる中国語検定4級一筆記編』(斎藤敏康監修, 文楚雄・陳敏編著, 郁文堂) 全153頁	2013. 3
瓜生 吉則	論文(単著)	「メディアと文化の理論」(浪田陽子・福岡良明編『はじめてのメディア研究』, 世界思想社) 123-147頁	2012. 4
	論文(単著)	「『少年ジャンプ』のメディア論」(『同上』) 215-221頁	2012. 4
漆原 良	研究発表等(共同)	「運動部位への触覚の付加が運動学習効果に与える影響」(日本体育学会第63回大会, 於: 東海大学)	2012. 8
江口 友朗	論文(共著)	“Rethinking the Role of an “Informal” Institution and Its Economic Effects: A Case study of Mutual Assistance Payments among Households in the Kingdom of Thailand.” (『Tomoaki EGUCHI and Sinudom ARISSARA in random order』 Book of Abstracts: 24th Annual Conference of the European Association for Evolutionary Political Economy, Published by Cracow University of Economics) pp.132-134.	2012.10
	論文(単著)	「タイにおける家計間での相互扶助の実態に関する一試論: 経験的事例と制度の理論の架橋に向けて」(『経済科学』60巻4号, 名古屋大学大学院経済学研究科) 105-118頁	2013. 3
	研究発表等(共同)	“Rethinking the Role of an “Informal” Institution and Its Economic Effects: A Case Study of Mutual Assistance Payments among Households in the Kingdom of Thailand. (Co-Author: Sinudom ARISSARA)” (Tomoaki EGUCHI and Sinudom ARISSARA in a random order 『Economic Policy in Times of Crisis』, 24th Annual Conference of the European Association for Evolutionary Political Economy (EAEPE))	2012.10
	研究発表等(共同)	「タイ王国での家計間での私的相互扶助の実態から見た所得再分配メカニズムの制度的・ミクロの基礎: Bangkok都でのマイクロ個票調査結果に基づいて」(Sinudom ARISSARA との順不同報告)(江口友朗・Sinudom ARISSARA (順不同) 進化経済学会第17回全国大会, 於: 中央大学)	2013. 3
遠藤 保子	論文(共著)	「ナイジェリア国立舞踊団と舞踊のデジタル記録・保存」(『立命館産業社会論集』48巻4号) 1-18頁	2013. 3
	論文(単著)	「アフリカの舞踊とグローバル教育に関する基礎的研究」(『(社)日本女子体育連盟学術研究』29巻) 1-16頁	2013. 3

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
遠藤 保子	研究発表等 (シンポジスト)	「アフリカの舞踊とグローバル教育～小学生を対象にした舞踊事例を中心として」(日本体育学会第63回大会スポーツ人類学専門分科会シンポジウム「舞踊人類学と教育プログラム—教材化の課題と展望—」, 於: 東海大学湘南キャンパス松前記念館)	2012.8
	研究発表等 (単独)	「ガーナの伝統的舞踊ガフとナイジェリアの舞踊」(日本体育学会第63回大会, 於: 東海大学湘南キャンパス14-404教室)	2012.8
	研究発表等 (共同, 国外)	「ブレイクダンスとそのルーツとしてのアフリカの舞踊」(相原進, スポジィンサロン in 韓国, 於: ソウル中央大学)	2013.2
	研究発表等 (共同)	「モーションキャプチャシステムを用いたガーナの伝統的舞踊の解析」(相原進・八村広三郎ほか, 日本スポーツ人類学会第14回学会大会, 於: 金沢大学サテライト・プラザ)	2013.3
大谷いづみ	論文(単著)	「犠牲を期待される者—「死を掛け金に求められる承認」という隘路」(『現代思想』40巻7号(特集: 尊厳死は誰のものか), 青土社) 198-209頁	2012.6
	論文(単著)	「患者および一般市民のための生命倫理教育—パッケージ化された「生と死の物語」の構造を読み解く」(第6章, 伴信太郎・藤野昭宏責任編集『医療倫理教育』, (シリーズ生命倫理学・第19巻), 丸善出版) 108-128頁	2012.7
	研究発表等 (単独)	「生命倫理(学)と生存学のやっかいな関係について—たいていは是非論の単純な問題「解決」には終わら／終えられない ver.2」(2012年度 立命館大学生存学セミナー, 於: 立命館大学)	2012.8
	研究発表等 (共同)	「生命倫理教育の再考」(香川千晶, 第24回日本生命倫理学会年次大会大会企画シンポジウム, 於: 立命館大学)	2012.10
	研究発表等 (単独)	「生・老・病・死の言説構造と生命倫理教育/死生観教育」(第24回日本生命倫理学会年次大会大会企画シンポジウム「生命倫理教育の再考」, 於: 立命館大学)	2012.10
	研究発表等 (単独)	「問いをはぐくむ」(日本教育新聞社教育セミナー2012 in 大阪「今, 求められるいのちの教育」, 於: たかつガーデン・大阪市)	2012.12
	研究発表等 (単独)	「自分らしく, 人間らしく死にたい?—尊厳死・安楽死を考える」(2012年度修学院フォーラム「高齢を生きる—認知症・胃ろう・尊厳死を見据えて」, 於: 関西セミナーハウス・京都市)	2013.1
	その他(単著)	「尊厳死」(高橋恵子ほか編『発達科学入門3 青年期—後期高齢期』, 東京大学出版会) 280-281頁	2012.4
	その他(単著)	「生命倫理・環境倫理」(日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』, ぎょうせい) 216-217頁	2012.6
大野 威	研究発表等 (単独)	「米自動車メーカーの急速な経営改善と2011年に締結された労働協約の検討」(社会政策学会第125回大会, 於: 長野大学)	2012.10
岡本 茂樹	著書(単著)	『ロールレタリング 手紙を書く心理療法の理論と実践』(金子書房) 全190頁	2012.9
	著書(単著)	『無期懲役囚の更生は可能か 本当に人は変わることはないのだろうか』(晃洋出版) 全264頁	2013.1
	論文(単著)	「無期懲役受刑者の更生は可能か 矯正教育におけるロールレタリングの導入と意義」(『ロールレタリング研究』12巻, 日本ロールレタリング学会) 9-19頁	2012.8
	論文(単著)	「グループワークと交換ノートを用いた殺人を犯した受刑者に対する心理的支援」(『心理臨床学研究』30巻04号, 日本心理臨床学会) 559-570頁	2012.10

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
岡本 茂樹	研究発表等 (単独)	「社会復帰を控えた生命犯に対する更生プログラムの研究」(日本司法福祉学会第13回大会, 於: 東洋大学)	2012. 8
	研究発表等 (単独)	「殺人を犯した受刑者に対する更生プログラムの研究—被害者に対するロールレタリングの効果的導入」(日本ロールレタリング学会第13回大会, 於: 福岡市)	2012. 8
岡本 裕子	研究ノート (共著)	「障害者雇用の推進方策のあり方」(峰島厚, 『立命館産業社会論集』48巻1号) 197-209頁	2012. 6
岡本 尚子	論文(共著)	「計算課題遂行時における教師-学習者間の神経科学的検討」(黒田恭史・前迫孝憲, 『教育システム情報学会誌』30巻1号, 教育システム情報学会) 122-127頁	2013. 1
	研究発表等 (共同, 国外)	“Feature of Brain Activity while Solving “Sequences tasks” of Different Difficulty Levels” (Yasufumi Kuroda, Korean Society of Mathematical Education, 於: Seoul National University, Korea)	2012. 4
	研究発表等 (共同, 国外)	“Classification of characteristics of brain activity data during mathematical tasks from the view of educational research” (Yasufumi Kuroda・European Association for Research on Learning and Instruction, 於: University of London, U.K.)	2012. 5
	研究発表等 (共同, 国外)	“How can brain activity data contribute to understanding of mathematical learning process?” (Yasufumi Kuroda, 12th International Congress on Mathematical Education, 於: COEX, Seoul, Korea)	2012. 7
	研究発表等 (共同)	「計算課題時の視線計測分析」(黒田恭史, 数学教育学会秋季例会, 於: 九州大学)	2012. 9
	研究発表等 (共同)	「論理課題遂行時の前頭前野におけるヘモグロビン濃度変化の特徴」(竹歳賢一・黒田恭史・日本教育実践学会第15回研究会, 於: 兵庫教育大学)	2012.11
	研究発表等 (共同)	「社会脳研究から見た教育学と神経科学の今後の展開」(黒田恭史, 日本教育実践学会第15回研究会, 於: 兵庫教育大学)	2012.11
	研究発表等 (単独)	「算数課題を用いた脳活動と視線移動の計測」(日本・中国数学教育国際会議, 於: 佛教大学)	2012.11
	研究発表等 (共同, 国外)	“Visualization of teacher’s thinking process while observing students: an educational neuroscientific approach” (Yasufumi Kuroda, The 2013 International Society for the Social Studies Annual Conference, 於: University of Central Florida, U.S.A.)	2013. 2
	研究発表等 (共同)	「教授側と学習者側の時系列脳活動変化の比較」(黒田恭史・数学教育学会春季年会, 於: 京都大学)	2013. 3
小川 栄二	論文(単著)	「介護報酬改訂, 介護をめぐる労働環境の問題」(『人権と部落問題』No837, (社団) 部落問題研究所) 48-55頁	2012.12
	論文(単著)	「社会的孤立と行政」(河合克義・菅野道生ほか編『社会的孤立問題への挑戦』, 法律文化社) 72-87頁	2013. 2
	調査報告 (共著)	『平成24年度介護報酬改訂に伴う生活援助に関するアンケート集約報告』(京都ホームヘルパー連絡会) 1-30頁	2012. 8
	研究発表等 (シンポジスト)	「介護が支える生活, そして未来—介護は生活支援の主役になり得るか」(第20回日本介護福祉学会大会公開シンポジウム, 於: 京都女子大学)	2012. 9

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
小澤 亘	論文(共著)	“Volunteer Support Network for Elderly Foreigners: A New Movement of Korean Residents in Kyoto” (Yukifumi Makita, Koichiro Higuchi, et all, 『立命館産業社会論集』48巻3号) 19-40頁	2012.12
	論文(単著)	“Comparative Study on Volunteerism of Youth in Japan, Korea and Canada: Civil Society and Volunteer Problems” (『Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities』5巻) 125-143頁	2013.3
	論文(単著)	「日本・韓国・カナダ3カ国における青年ボランティア文化比較研究—市民社会とボランティア問題」(『立命館大学人文科学研究紀要』99巻) 183-212頁	2013.3
	研究発表等 (共同, 国外)	“Volunteer Support Network for Elderly Foreigners: A New Movement of Korean Oldcomers in Kyoto (Japan)” (Yukifumi Makita et all, International society for third sector research (ISTR), 於: シエナ大学)	2012.7
	研究発表等 (単独, 国外)	“Action research on the minority problem in Japan: how we can empower the support network for foreign students' education” (International society for third sector research (ISTR), 於: シエナ大学)	2012.7
角田 将士	論文(単著)	「日本の歴史教育における市民的資質育成とその変遷—中学校学習指導要領における二つの教育論」(韓国社会教育学会・全国社会科教育学会編『韓国・中国・日本における市民性教育』研究交流紀要) 87-103頁	2012.9
	論文(単著)	“The Logic and Changes of Developing Citizenship in Teaching History in Japan—Two Educational Theories in the Course of Study for the Social Studies in the Secondary School—” (『The Korean Association for The Social Studies Education “Research in Social Studies Education”』19巻4号) 1-14頁	2012.11
	論文(単著)	「日本史教育における学習課題の現在性—昭和26年版小学校社会科学習指導要領と教科書の分析を通して」(『立命館産業社会論集』48巻3号) 57-74頁	2012.12
	論文(単著)	「中学校学習指導要領における二つの歴史教育論とその特質—1951年版と1958年版の比較分析」(『日本と韓国における市民性に関する比較教育史研究』平成22年度～平成24年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書) 43-56頁	2013.3
	論文(単著)	「小学校教員養成における社会科授業構成能力の育成—教師のゲートキーピング論を手がかりに」(『立命館産業社会論集』48巻4号) 147-158頁	2013.3
	論文(単著)	「魅力ある社会系授業の創造—学習者の視点を踏まえた授業構成のあり方」(大分県高等学校教育研究会地理歴史科公民科部会編『研究集録』49号) 2-17頁	2013.3
	その他 (項目執筆)	『新 社会科教育学ハンドブック』(社会認識教育学会編, 明治図書) 348-356頁	2012.4
	研究発表等 (単独, 国外)	「日本の歴史教育における市民的資質形成とその変遷—中学校学習指導要領における二つの教育論—」(韓国社会教育学会・全国社会科教育学会第2回研究交流会, 於: 韓国 慶尚大学校)	2012.9
加藤 雅俊	論文(単著)	「福祉国家再編分析におけるアイデア・利益・制度(3・完)—制度変化の政治学的分析に向けて」(『北大法学論集』63巻1号, 北海道大学) 47-102頁	2012.5
	論文(単著)	「比較福祉国家論における言説政治の位置—政治学的分析の視角」(宮本太郎編『福祉+α福祉政治』, ミネルヴァ書房) 133-150頁	2012.10

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
加藤 雅俊	論文(単著)	“Welfare States Transformations and Immigrations in Japan and Australia: A Comparative Perspective” (『Conference Proceedings of International Symposium on “People’s Mobility in East Asia”』) 223-253頁	2013. 3
	翻訳(単訳)	「福祉のモデル化・再訪—東アジア福祉レジームの場合」(ピーター・アブラハムソン著, 『立命館産業社会論集』48巻1号) 247-263頁	2012. 6
金山 勉	著書(共著)	『はじめてのメディア研究』(浪田陽子・福間良明編, 世界思想社, 第2章「メディア史を概観する」, column 2「メディア政策と地デジ化」, column 4「人間を解放する営みとしての「パブリック・アクセス」担当, 世界思想社) 35-70, 150-151, 210-211頁	2012. 4
	その他(単著)	「米国人の91%がネット検索」(『メディア展望』603号, (公)新聞通信調査会) 27頁	2012. 4
	その他(単著)	「新聞経営モデルと決別せよ」(『同上』605号, 同上) 37頁	2012. 5
	その他(単著)	「NYTの伸び顕著—米の新聞雑誌部数調査」(『同上』606号, 同上) 29頁	2012. 6
	その他(単著)	「老舗NBCがスポーツ・ラジオ局開局へ」(『同上』607号, 同上) 17頁	2012. 7
	その他(単著)	「米でロンドン五輪が史上最多視聴」(『同上』608号, 同上) 17頁	2012. 8
	その他(単著)	「大統領候補指名のTVは視聴激減」(『同上』610号, 同上) 17頁	2012.10
	その他(単著)	「Sフォン普及で米選挙戦略に変化」(『同上』611号, 同上) 34頁	2012.11
	その他(単著)	「海外メディア事情: 大統領選挙とメディア変容」(『月刊民放』11月号, 日本民間放送連盟) 38-39頁	2012.11
	その他(単著)	「オバマ陣営, 独自の広告戦略が奏功」(『メディア展望』612号, (公)新聞通信調査会) 20頁	2012.12
	その他(単著)	「米, 複数メディア所有規制に緩和の動き」(『同上』613号, 同上) 33頁	2013. 1
	その他(単著)	「海外メディア事情: 所有規制緩和と実現なるか」(『月刊民放』2月号, 日本民間放送連盟) 28-29頁	2013. 2
	その他(単著)	「米のオールドメディアが底堅さ」(『メディア展望』614号, (公)新聞通信調査会) 26頁	2013. 2
	その他(単著)	「SボウルのTV視聴者数が3%減」(『同上』615号, 同上) 26頁	2013. 3
唐鎌 直義	著書(共著)	『「大量失業社会」の労働と家族生活—筑豊・大牟田150人のオーラルヒストリー』(都留民子・高林秀明ほか, 大月書店) 241-269頁	2012. 5
	著書(単著)	『脱貧困の社会保障』(旬報社) 全330頁	2012. 9
	著書(共著)	『福祉論研究の地平—論点と再構築』(河合克義・石倉康次ほか, 法律文化社) 21-52頁	2012. 9
	著書(共著)	『社会保障再生への改革提言—すべての人の生きる権利を守りぬく』(日野秀逸・公文昭夫ほか, 新日本出版社) 21-54頁	2013. 1
川口 晋一	著書(共著)	『はじめてのメディア研究』(浪田陽子・福間良明編, 世界思想社) 185-193頁	2012. 4
	論文(単著)	「チャールズ・スウェプリンとシカゴ・レクリエーション運動の萌芽—社会改良から総合都市計画へ」(『立命館産業社会論集』48巻1号) 155-180頁	2012. 6
	論文(単著)	「シカゴ・レクリエーション運動におけるアメリカナイゼーション—プロテストантиズムとセツルメントを中心に」(『立命館産業社会論集』48巻2号) 75-94頁	2012. 9
権 学俊	研究発表等(単独, 国外)	「東アジアにおけるジャパナイゼーション」(高麗大学日本研究センター研究会, 於: 高麗大学・韓国)	2012. 5

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
権 学俊	研究発表等 (単独, 国外)	「植民地朝鮮におけるスポーツイベントと天皇制」(現代日本社会研究会月例研究会, 於: 世明大学・韓国)	2012. 6
	研究発表等 (単独)	「戦後日本保守政治家の歴史認識—植民地支配発言を中心として」(韓国社会文化研究会第58回西部研究会, 於: 立命館大学)	2012. 7
	研究発表等 (同会・パネリスト等)	「3.11以後 韓国の日本研究」(韓国日本研究団体国際学術大会第1回国際学術大会, 韓国日本学会第85回学術大会, 於: 淑明女子大学校)	2012. 8
黒田 学	著書(共編著)	『福祉がつなぐ地域再生の挑戦—自治体と歩む障害者福祉の可能性』(よさのうみ福祉会共編, クリエイツかもがわ) 全223頁	2012. 7
	論文(単著)	「現代ベトナムの国家と社会—人々と国の関係性が生み出す〈ドイモイ〉のダイナミズム」(『日本ベトナム障害児教育・福祉研究』10号, 文理閣) 79-85頁 (寺本実編著, 明石書店, 2011年)	2012. 8
	論文(共著)	「キューバ・ハバナにおける障害児教育の実情」(小西豊・荒木穂積・バユス・ユイスほか共著, 『総合社会福祉研究』41号, 総合社会福祉研究所) 104-107, 115頁	2012.12
	論文(単著)	「ベトナムの障害者教育法制と就学実態」(小林昌之編『開発途上国の障害者教育—教育法制と就学実態』研究会・調査研究報告書, 独立行政法人日本貿易振興機構・アジア経済研究所) 81-91頁	2013. 3
	研究発表等 (同会・パネリスト等)	「特別ニーズ教育の国際比較研究(その1)」(自主企画シンポジウム 日本特殊教育学会第50回大会, 於: つくば国際会議場エポカル)	2012. 9
小泉 秀昭	論文(単著)	「応援イメージ「共視性」を視野にいたれたエンゲージメント状態の考察—番組コンテンツと連動したTVCM表現の可能性」(『日経広告研究所報』46巻2号) 10-17頁	2012. 4
	研究発表等 (単独)	「メディアプランニング, 残すべきモノと変えるべきモノ!—20年の流れとネット時代に求められるモノ」(日本広告学会関西西部, 於: 朝日放送)	2012. 9
	研究発表等 (単独)	「共視性を視野にいたれた広告マネジメントの方向性—広告取引調査に関連づけて」(日本広告学会第43回全国大会, 於: 駒沢大学)	2012.11
坂田 謙司	著書(共著)	『はじめてのメディア研究』(浪田陽子・福間良明編, 「メディアは, 誰が, なぜ生み出すのか」担当, 世界思想社) 178-184頁	2012. 4
	論文(単著)	「与那国島民の台湾テレビ電波による東京オリンピック視聴の意味考察」(『立命館産業社会論集』48巻2号) 21-38頁	2012. 9
	調査報告 (共著)	「東北被災地大学調査」(景井充・高嶋正晴ほか, 『立命館産業社会論集』48巻4号) 159-171頁	2013. 3
坂本 利子	論文(単著)	「異文化交流授業から国内学生は何を学んでいるか—多文化共生力育成をめざして」(『立命館言語文化研究』24巻3号) 143-157頁	2013. 3
崎山 治男	その他(単著)	「感情社会学」等(見田宗介他編『現代社会学事典』, 弘文堂) 224-227, 535頁	2012.11
櫻井 純理	論文(単著)	「中小企業の教育訓練と雇用管理に対するジョブ・カード制度の影響—導入企業・受講生に対する調査で得られた知見と考察」(『大原社会問題研究所雑誌』644号, 法政大学大原社会問題研究所) 20-36頁	2012. 6
	論文(単著)	「地域に雇用をどう生み出せるのか?—大阪府豊中市における雇用・就労支援政策の概要と特徴」(『立命館産業社会論集』48巻2号) 53-73頁	2012. 9

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
櫻井 純理	論文(単著)	「社会的企業の活動はどのように「社会的」なのか—活動参加者や地域に対するエンパワメントの実際」(『大阪におけるパーソナル・サポート事業からみえてきた生活困窮者支援の課題』, おおさかパーソナル・サポート事業調査研究部会) 12-27頁	2013. 3
	報告書(単著)	「就労支援, 継続就労と地方自治体の役割」(『生活困窮者・孤立者の就労による生活再建の先進事例とあるべき仕組みに関する調査研究事業報告書』, ホームレス資料センター) 19-23頁	2013. 3
	書評(単著)	「米澤旦著『労働統合型社会的企業の可能性—障害者就労における社会的包摂へのアプローチ』」(『日本労働研究雑誌』625号, 労働政策研究研修機構) 93-95頁	2012. 8
	研究発表等(単独)	「地域に雇用をどう生み出せるのか—大阪府豊中市における雇用・就労支援政策の特徴」(社会政策学会第124回春季大会, 於: 駒沢大学)	2012. 5
	研究発表等(共同)	「就職困難者に仕事を! 豊中市の試み」(長松奈美江との共同報告, 『職場の人権』研究会, 2012年6月16日に口頭報告を行った記録, 於: エル大阪)	2012.11
櫻谷真理子	研究発表等(共同)	「児童養護施設退所者へのアフターケアの現状と課題」(浦田雅夫, 日本生活指導学会第30回研究大会, 於: 立命館大学)	2012. 9
笹野恵理子	論文(共著)	「実技教科授業における子どもの学びの経験—日本と韓国の小学校の授業比較を通して」(宮本隆信・刈谷三郎ほか, 『Korean Journal of the Japan Education』17巻1号, The Society of Korea for Japan's Education) 213-229頁	2012. 8
	論文(単著)	「学校音楽カリキュラムへの適応過程におけるダイナミズム—学校音楽カリキュラム経験の解明に向けて」(『関西楽理研究』29巻, 関西楽理研究会) 55-73頁	2012.11
	論文(単著)	「音楽教育実践研究における『記録』の諸相—量的研究と質的研究における『記述』と『解釈』をめぐって」(『音楽教育学』42巻2号, 日本音楽教育学会) 44-51頁	2012.12
	その他(共著)	「音楽科授業における協同学習の可能性—箏のアンサンブル授業の検討をとおして」(野垣内菜穂, 『学校音楽教育研究』17巻, 日本学校音楽教育実践学会) 194-195頁	2012. 8
	その他(共著)	「日本人学校における音楽教育実践—音楽専科教員の『語り』の分析」(嶋田春奈・岩田真由子, 『学校音楽教育研究』17巻, 日本学校音楽教育実践学会) 189-190頁	2013. 3
	研究発表等(共同)	「日本人学校における音楽教育実践—音楽専科教員の『語り』の分析」(嶋田春奈・岩田真由子, 日本学校音楽教育実践学会第17回全国大会, 於: 鳴門教育大学)	2012. 8
	研究発表等(共同)	「音楽科授業における協同学習の可能性—箏のアンサンブル授業の検討をとおして」(野垣内菜穂, 日本学校音楽教育実践学会第17回全国大会, 於: 鳴門教育大学)	2012. 8
	研究発表等(単独)	「学校音楽を『教える』ことと『学ぶ』ことの諸相(2)—学校音楽カリキュラム経験研究」(日本音楽教育学会第43回大会, 於: 東京音楽大学)	2012.10
	研究発表等(パネリスト)	「音楽教育実践研究における『記録』の諸相—量的研究と質的研究における『記述』と『解釈』をめぐって」(『課題研究』「音楽教育学における『記録』」(日本音楽教育学会第43回大会, 於: 東京音楽大学)	2012.10

名 前	種 別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
佐藤 春吉	論文(単著)	「批判的实在論 (Critical Realism) と存在論的社会科学の可能性」(唯物論研究協会編『唯物論研究年誌〈いのち〉の危機と対峙する』17号, 大月書店) 200-216頁	2012.10
	論文(単著)	「M. ヴェーバーの文化科学と価値関係論(上)―M. ヴェーバーの科学論の構図と理念型論―多元主義的存在論の視点からの再解釈の試み―その1」(『立命館産業社会論集』48巻3号) 1-18頁	2012.12
	論文(単著)	「M. ヴェーバーの文化科学と価値関係論(下)―M. ヴェーバーの科学論の構図と理念型論―多元主義的存在論の視点からの再解釈の試み―その1」(『同上』48巻4号) 19-39頁	2013. 3
	研究発表等(単独)	「批判的实在論と学際研究の可能性」(金沢大学経済学研究科「学際総合の可能性」研究会(招待講演), 於: 金沢大学)	2013. 3
鎮目 真人	論文(単著)	「セーフティネット構造と震災対策の課題―制度の隙間に焦点を当てて」(『福祉社会学研究』9号, 福祉社会学会) 26-45頁	2012. 5
	論文(単著)	「(評論) 2011年度学界回顧と展望 社会保障・社会福祉政策部門」(『社会福祉学』53巻3号, 日本社会福祉学会) 126-139頁	2012.11
	研究発表等(同会・パネリスト等)	「東アジア社会分析に向けた新たな国際比較アプローチ(日本・東アジア社会政策部会)での討論者」(社会政策学会第124回大会, 於: 駒澤大学)	2012. 5
	研究発表等(単独)	「政策アイディア・フレーミングと2004年年金改革」(日本年金学会, 関西特別部会, 於: 同志社大学)	2012. 6
下條 正純	論文(単著)	「『マリア様がみてる』における女性文末辞と人物描写」(『コンテンツ文化史研究』7号, コンテンツ文化史学会) 12-24頁	2012. 4
杉本通百則	研究発表等(単独)	「1980年代のドイツにおけるアスベストセメント製品の代替化の要因」(日本環境学会第38回研究発表会, 於: 別府大学)	2012. 6
	研究発表等(単独)	“The current situation and problem of Disaster Waste Management after the Great East Japan Earthquake” (Hochschule für Technik und Wirtschaft Berlin (Deutsch-Japanisches Forschungskolloquium))	2012. 9
住家 正芳	論文(単著)	“Social Darwinism and Religion: The Cross-Cultural Experiences of Liang Qichao and Nitobe Inazo.” (Comparative Studies on Regional Powers 13号, Slavic Research Center, Hokkaido University) 185-195頁	2013. 3
	論文(単著)	「内村鑑三はベンジャミン・キッドをどう読んだか: 社会進化論の影響の一断面」(『立命館産業社会論集』48巻4号) 85-101頁	2013. 3
	研究発表等(単独)	「内村鑑三におけるナショナリズム・宗教・進化論: Japan と Jesus をつなぐもの」(日本国際政治学会2012年度研究大会, 於: 名古屋国際会議場)	2012.10
高嶋 正晴	資料紹介(単著)	「『グローバル市民社会年鑑』に関する一覚書」(『立命館産業社会論集』48巻4号) 173-188頁	2013. 3
	調査報告(共著)	「東北被災地大学調査」報告」(景井充・坂田謙司ほか, 『同上』48巻4号) 159-171頁	2013. 3
竹内 謙彰	論文(単著)	「高機能自閉症スペクトラム障害者の特別なニーズ―青年期後期～成人期の子どもを持つ母親に対するインタビューに基づく分析」(『心理科学』33巻2号, 心理科学研究会) 46-63頁	2012.12
	論文(単著)	「高機能自閉症スペクトラム障害者の特別なニーズ―青年期後期～成人期の当事者に対するインタビューに基づく分析」(『立命館産業社会論集』48巻4号) 41-58頁	2013. 3

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
竹内 謙彰	研究発表等 (単独)	「発達障害をもつ子どもの親の障害受容プロセスの検討—ナラティブ分析とライフラインメソッド: M-GTA による分析の報告」(対人援助学会第4回年次大会, 於: 神奈川県立保健福祉大学)	2012.12
	研究発表等 (共同)	「東アジアにおける自閉症スペクトラム児の親のニーズに関する比較研究(5)—中国(蘇州市)における学齢児の親のニーズの分析から」(荒木穂積ほか, 日本発達心理学会第24回大会, 於: 明治学院大学)	2013. 3
	研究発表等 (共同)	「自閉症児の遊びと集団活動を援助する療育プログラム開発(1)—幼児期・小学校低学年: 見立てとごっこ—」(荒木穂積ほか, 日本発達心理学会第24回大会, 於: 明治学院大学)	2013. 3
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の遊びと集団活動を援助する療育プログラム開発(2)—小学校中・高学年: ごっこ協力」(荒木穂積ほか, 日本発達心理学会第24回大会, 於: 明治学院大学)	2013. 3
	研究発表等 (共同)	「自閉症スペクトラム児の遊びと集団活動を援助する療育プログラム開発(3)—中学生期: 協働と自主性—」(荒木穂積ほか, 日本発達心理学会第24回大会, 於: 明治学院大学)	2013. 3
竹濱 朝美	著書(共著)	『「原発ゼロ」プログラム』(安齋育郎・館野淳ほか, かもがわ出版) 117-148頁	2013. 3
	論文(単著)	「再生可能エネルギー買取制の効果と費用, ドイツとの比較から見る今後の課題」(『都市問題』103巻6号, 公益財団法人 後藤・安田記念東京都市研究所) 20-32頁	2012. 6
	論文(単著)	「再生可能エネルギー固定価格買取制の経済効果, ドイツの経験から」(『中小商工業研究』112号, 中小商工業研究所) 11-28頁	2012. 7
	論文(単著)	「ドイツ再生可能エネルギー電力の系統連系をめぐる給電データ開示, 優先接続に関する透明性(transparency)の確保について」(『第34回 風力エネルギー利用シンポジウム予稿集』34巻1号, 風力エネルギー学会) 263-266頁	2012.11
	論文(単著)	「東京電力の料金原価に基づく原子力発電の費用」(『立命館産業社会論集』48巻3号) 41-58頁	2012.12
	論文(単著)	「ドイツの再生可能エネルギー買取制の費用と効果」(上園昌武編『先進事例から学ぶ再生可能エネルギーの普及戦略』, 第4章所収, 本の泉社出版) 69-92頁	2013. 3
	論文(単著)	「風力発電の系統連系の課題」(安齋育郎・館野淳 ほか編, 『「原発ゼロ」プログラム』, 第3章1節所収, かもがわ出版) 140-148頁	2013. 3
筒井 淳也	著書(共著)	『はじめてのメディア研究』(浪田陽子・福岡良明編, 「メディアと社会の理論」, 世界思想社) 97-122頁	2012. 4
	著書(共著)	“Gender Segregation of Housework” in Sigeto Tanaka ed. A Quantitative Picture of Contemporary Japanese Families. (Sendai: Tohoku University Press) pp.123-146.	2013. 3
	論文(共著)	“New Risks, Old Welfare: Japanese University Students, Work-related Anxieties and Sources of Support” (Tuukka Toivonen, Junya Tsutsui and Haruka Shibata, Kobe University RIEB Discussion Paper Series, vol. 17) pp.1-27.	2012. 6
	論文(単著)	「マルチレベル分析を有効活用するには」(『社会と調査』9巻, 一般社団法人社会調査協会) 102-106頁	2012.10

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
筒井 淳也	論文(単著)	「公的セクター雇用における女性労働とワーク・ライフ・バランス」(『社会科学研究』64巻1号, 東京大学社会科学研究所) 155-173頁	2012.12
	論文(単著)	“East Asian Welfare Model and Its Discontents: A Theory of Twin Mismatches in Labor and the Marriage Market” (Journal of Ritsumeikan Social Sciences and Humanities, vol.5, The Institute of Humanities, Human and Social Sciences) pp.99-111.	2013. 3
	研究発表等 (共同, 国外)	“Disaggregating Housework: An International Comparison of Gendered Segregation of Household Labor” (Junya Tsutsui and Maki Takeuchi, 2012 Annual Meeting of Population Association of America, San Francisco)	2012. 5
	研究発表等 (単独)	「晩婚化・少子化についての理論と実証」(Search Theory Workshop, 於：大阪大学)	2012. 5
仲井 邦佳	その他(単著)	「スペイン語講座 (9) 比較構文《más ~ de lo que》について」(『Acueducto』9号, Adelante) 23頁	2012. 5
	その他(単著)	「スペイン語講座 (10) 比較構文の様々な用法について」(『同上』10号, Adelante) 27頁	2012. 8
	その他(単著)	「スペイン語講座 (11) 最上級構文について」(『同上』11号, Adelante) 29頁	2012.11
	その他(単著)	「スペイン語講座 (12) 過去分詞について」(『同上』12号, Adelante) 31頁	2013. 2
中井 美樹	著書(共著)	『データ分析入門—基礎統計』(岡太彬訓・元治恵子, 共立出版) 全176頁	2012.10
中西 純司	論文(単著)	「文化としてのスポーツ」の価値」(『人間福祉学研究』5巻1号, 関西学院大学人間福祉学部研究会) 7-24頁	2012.11
	論文(単著)	「スポーツ政策とスポーツ経営学」(『体育・スポーツ経営学研究』26巻1号, 日本体育・スポーツ経営学会) 3-15頁	2012.12
	研究発表等 (共同)	「「スポーツサービス・マネジメント」理論の構築における課題と展望 (I): 「顧客苦情マネジメント」戦略フレームワークの設計」(日本体育学会第63回大会, 於：東海大学)	2012. 8
	研究発表等 (共同)	「ジャパンラグビートップリーグのイベント・マーケティング戦略に関する研究」(桐谷隆介, 日本体育学会第63回大会, 於：東海大学)	2012. 8
研究発表等 (単独)	「「スポーツ政策経営」学の可能性—スポーツ政策の経営学を求めて」(日本体育・スポーツ経営学会第44回研究集会「体育・スポーツ経営学の今日的・組織的研究課題を考える」, 於：早稲田大学)	2012.12	
中西 典子	論文(単著)	「都市の集積的記憶と公共性—ベルリン市の事例から」(都市環境における生活公共性の比較社会学的研究 (科学研究費補助金 (基盤研究 (A)) 研究成果報告書 研究代表者 名古屋大学 田中重好)) 83-107頁	2013. 3
	研究発表等 (単独)	「都市と公共性—ベルリン市の事例から」(「都市環境における生活公共性の比較社会学的研究」, 日中学術交流会, 於：札幌ガーデンパレス)	2012.11
中西 仁	論文(単著)	「「京都の授業」を創るⅡ—七けた郵便番号の教材化」(『京教社会』17号, 京都教育大学社会科系教育研究会) 3-21頁	2013. 3
	その他(単著)	「「ADHD という憂鬱」その後Ⅱ—旅立ち」(『こべる』239号, こべる刊行会) 13-14頁	2013. 2
中村 正	論文(単著)	「男親への働きかけをとおした家族再統合支援—大阪での男性向け脱暴力支援の取り組みから」(『そだちと臨床』第12号, そだちと臨床編集委員会, 明石書店) 80-84頁	2012. 4

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
中村 正	論文(単著)	「社会臨床の視界(9) ケア・リーバー Care Leaver たち—『忘れられたオーストラリア人』への謝罪から考える」(『対人援助学マガジン』第3巻1号, 日本対人援助学会) 14-25頁	2012. 6
	論文(単著)	「社会臨床の視界(10) ソーシャル・ナラティブと社会臨床—変わりにくい日常という物語を書き換えることの重要性と社会の物語構造に着目することの意義について」(『同上』, 第3巻2号, 日本対人援助学会) 15-26頁	2012. 9
	論文(単著)	「ハラスメント加害者」(廣井亮一編『加害者臨床』, 日本評論社) 104-113頁	2012.12
	論文(単著)	「社会臨床の視界(11) 日常に潜む暴力」(『対人援助学マガジン』第3巻3号, 日本対人援助学会) 17-30頁	2012.12
	論文(単著)	「社会臨床の視界(12) 暴力を振るうものたちの『言い訳』の分析—脱暴力への認知再構成の手がかりと修復の課題の生成にむけて」(『同上』第3巻4号, 日本対人援助学会) 16-27頁	2013. 3
	その他(単著)	「男性問題」(見田宗介ほか編, 『現代社会学事典』, 辞典項目執筆, 弘文堂) 866頁	2012.12
	研究発表等(単独)	「家族研究の方法論—臨床家族社会学方法論」(日本家族看護学会第19回学術集会(招待講演), 学術総合センター・学生会館)	2012. 9
研究発表等(共同)	「傷ついた男性性からの回復(その1)」(國友万裕, 第4回日本対人援助学会, 於: 神奈川県立保健福祉大学)	2012.12	
永橋 爲介	著書(共著)	『職員のための市民参加推進の手引き—参加と協働により, 豊かで活力のある地域社会の実現のために』(京都市市民参加推進フォーラム・京都市総合企画局市民協働政策推進室) 全117頁	2012. 4
	論文(共著)	「空き缶回収野宿者への聞き取り調査から検証する京都市「廃棄物の減量及び適性処理等に関する条例」改正プロセスにおける野宿者像とその向き合い方(上)」(丸山里美・木村理恵ほか, 『立命館産業社会論集』48巻4号) 59-83頁	2013. 3
浪田 陽子	著書(共編著)	『はじめてのメディア研究』(福間良明共編, 第1章「メディア・リテラシー」, Column 1「メディア・コングロマリットと民主主義のゆくえ」, 世界思想社) 3-34, 148-149頁	2012. 4
盧 載玉	著書(単著)	『朝鮮時代初期の山水画』(三恵社) 全222頁	2012. 9
野田 正人	著書(共編著)	『よくわかるスクールソーシャルワーク』(山野則子・半羽利美佳ほか, ミネルヴァ書房) 24-25, 28-29, 52-55, 92-93, 148-151, 188-189頁	2012. 4
	論文(単著)	「虐待を受けた児童と教員の困難」(『季刊教育法』175号, エイデル研究所) 40-43頁	2012.12
	研究発表等(司会・パネリスト等)	「問題行動にかかわるためのアセスメント(見立て)の工夫」(日本学校ソーシャルワーク学会第7回研究大会, 於: 四国学院大学)	2012. 7
	研究発表等(司会・パネリスト等)	「学校教育とスクールソーシャルワークの相互作用」(スクールソーシャルワークと子ども家庭福祉研修会・京都, 於: 京都造形芸術大学)	2012.10
	研究発表等(司会・パネリスト等)	「年長児童の自立支援を考える」(児相研全国セミナー, 於: 日本福祉大学)	2012.11
研究発表等(単独)	「学校現場におけるスクールソーシャルワーカーの活用について」(日本学校ソーシャルワーク学会東海北陸地区研修会, 於: 福井市)	2013. 2	
長谷川千春	著書(共著)	洪谷博史・根岸毅宏編『アメリカの分権と民間活用』(「オバマ医療保険改革: 無保険者問題の地域性と分権的な無保険者対策」, 日本経済評論社) 203-231頁	2012. 8

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
原尻 英樹	著書(共著)	「済州島の堂壺岐島のお堂：東アジア海域における共有化された文化と「神」」(原文 中国語と韓国語)(朴元煥・葛振家・曹永祿ほか, 『中国江南と韓国：交流と友好の歴史』, 浙江大学) 214-250頁	2012. 6
	論文(単著)	「中国朝鮮族の生活戦略：米国ニューヨークの事例より」(原文 韓国語)(黄有福・劉京宰・鄭喜淑主編『グローバル朝鮮族文化ネットワークと文化産業研究』, 亜細亜経済文化研究所) 98-107頁	2012. 4
	研究発表等 (単独, 国外)	「済州島と壺岐島のお堂の比較研究：東シナ海域の共有化された文化」(第3回鬱陵島フォーラム, 於：韓国・独島博物館)	2012. 6
	研究発表等 (単独, 国外)	「済州島の堂と壺岐島のお堂：東シナ海域で共有化される文化と「神」」(原文は中国語と韓国語)(中韓修好20周年記念 中国江南と韓国, その交流と友好の歴史国際学術大会, 於：中国・浙江大学)	2012. 6
東 自由里	著書(共著)	<i>Creating Socially Responsible Citizens: Cases from the Asia-Pacific Region</i> John Cogan and David L. Grossman 編. <i>Research in Social Education Series, Ed. Merry Merryfield</i> 』(Information Age Publishing: Charlotte, NC, U.S.A. [paperback, hardcover, and eBook]) 分担執筆 “Local Governments as Promoters of Citizenship Education: A Case Study of Shinagawa City, Tokyo” 101-120頁	2012.10
樋口 耕一	論文(単著)	「社会調査における計量テキスト分析の実際—アンケートの自由回答を中心に」 「今日から始めるテキストマイニング—計量テキスト分析の環境『KH Coder』」(石田基広・金明哲編著『コーパスとテキストマイニング』, 第10章・資料2担当, 共立出版) 119-128, 204-209頁	2012.12
	論文(共著)	「Web 調査における公募型モニターと非公募型モニターの回答傾向—変数間の関連に注目して」(中井美樹・湊邦生, 『立命館産業社会論集』48巻3号) 95-103頁	2012.12
	論文(共著)	“Volunteer Support Network for Elderly Foreigners: A New Movement of Korean Residents in Kyoto” (Wataru Ozawa 他, 『立命館産業社会論集』48巻3号) 19-40頁	2012.12
	論文(単著)	「情報化イノベーションの採用と富の有無—ウェブの普及過程における規定構造の変化から」(『ソシオロジ』57巻3号, 社会学研究会, 潮人社) 39-55頁	2013. 2
	研究発表等 (共同, 国外)	Voluntary Support Network for the Elderly Foreigner: A New Movement of Korean Old Comers in Kyoto (Wataru Ozawa 他, 10th International Conference of the International Society for Third-Sector Research, 於：Siena, Italy)	2012. 7
日暮 雅夫	著書(共著)	『概説 現代の哲学・思想』(小坂国継ほか編, 「社会哲学・政治哲学」 「コラム7マルクス主義」, ミネルヴァ書房) 186-198頁	2012. 5
	論文(単著)	「公共圏における討議倫理の展開に必要なもの—原子力問題における専門家と市民との対話に関して」(『立命館産業社会論集』48巻1号) 141-154頁	2012. 6
	研究発表等 (単独)	「労働・承認・闘争—A. ホネットの「労働と承認」論」(社会思想史学会第37回大会 (セッションJ 承認論の現在—福祉・労働・承認の社会理論), 於：一橋大学)	2012.10
日高 勝之	著書(共著)	『グローバル化とメディア表象—韓流ブームと「喪」の越境』(浪田陽子・福間良明編 『はじめてのメディア研究』, 世界思想社) 250-257頁	2012. 4

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
日高 勝之	著書(共著)	『民族紛争と国際報道—イスラエル・パレスチナ紛争とメディア』(同上) 164-170頁	2012. 4
	論文(単著)	“Consuming the Past: Japanese Media at the Beginning of the Twenty-first Century” (Ph.D.thesis, University of London) pp.1-296.	2012. 5
	研究発表等 (単独)	「21世紀の国際機関とメディア広報の課題と展望」(日本ユニセフ協会, 於: 日本ユニセフ協会本部)	2012. 5
	研究発表等 (司会・パネリスト)	「メディア学と歴史」(日本コミュニケーション学会第42回全国大会, 於: 京都文教大学)	2012. 6
	研究発表等 (単独)	「メディア表象の中の伝統芸能」(日本コミュニケーション学会第11回関西支部大会, 於: 大阪キリスト教協会)	2012.11
平山真奈美	著書(共著)	『朝倉日英対照言語学シリーズ 2: 音声学』(服部義弘編, 朝倉書店) 27-45, 125-139頁	2012. 6
	論文(単著)	“VOWEL Devoicing in Japanese and Postlexical Alterability of Syllable Structure” (『Current Issues in Japanese Phonology: Segmental Variation in Japanese』) pp.1-34.	2013. 1
	研究発表等 (共同)	“Boundary Effects in Lexical Accent Variation and Vowel Devoicing in Japanese” (Manami Hirayama and Mikio Giriko, The 22nd Japanese/Korean Linguistics, National Institute for Japanese Language and Linguistics)	2012.10
	研究発表等 (共同)	“Perception of accent contrasts in vowel devoicing in Japanese” (Manami Hirayama, Mikio Giriko, The International Conference on Phonetics and Phonology 2013, National Institute for Japanese Language and Linguistics)	2013. 1
	研究発表等 (共同)	“Boundary Effects in Lexical Accent Variation and Vowel Devoicing in Japanese” (Manami Hirayama and Mikio Giriko, 国立国語研究所理論・構造研究系プロジェクト研究成果合同発表会, 於: 国立国語研究所)	2013. 3
	研究発表等 (単独)	“Effects of morphological boundaries in vowel devoicing in Japanese” (関西音韻論研究会, 於: 神戸大学)	2013. 3
	深澤 敦	論文(単著)	「フランスの家族手当と家族政策の歴史的転換—「主婦手当」問題を中心として」(法政大学大原社会問題研究所・原伸子編著『福祉国家と家族』, 法政大学出版) 163-191頁
福間 良明	著書(共編著)	山口誠・吉村和真ほか編『複数の「ヒロシマ」: 記憶の戦後史とメディアの力学』(青弓社) 21-24, 26-70頁	2012. 6
	著書(単著)	『二・二六事件の幻影: 戦後大衆文化とファシズムへの欲望』(筑摩書房) 全320頁	2013. 3
	著書(分担執筆)	天田城介・角崎洋平・櫻井悟史編『体制の歴史』(洛北出版) 310-362頁	2013. 3
	論文(単著)	「「ヒロシマとフクシマ」への問い: メディアと「われわれ」を考える (特集 メディア再考: 「伝える力」と「読み解く力」を問い直す)」(『まなぶ』663号, 労働大学出版センター) 18-22頁	2012. 8
イアン・ホザック	著書(単著)	‘Citizenship and Language Education in Japanese High schools’, in P. Cunningham & N. Fretwell (eds) <i>Creating Communities: Local, National & Global. London: CiCe.</i> pp.132-144.	2012.10
	研究発表等 (単独)	“Citizenship and language education in Japanese high schools” (Fourteenth Annual CiCe Network Conference/Eighth CitizED Conference/First Creating Citizenship Communities Conference)	2012. 5

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
増田 幸子	著書(共著)	浪田陽子・福岡良明編『はじめてのメディア研究』(『少女マンガで語られた「戦争」—花と夢だけではない少女マンガの世界』, 世界思想社) 229-235頁	2012.4
松田 亮三	報告書(単著)	“The Japanese Health Care System” (Thomson, S., Osborn, R., Squires, D. and Jun, M. (2012) International Profiles of Health Care Systems, 2012, The Commonwealth Fund) pp.66-71.	2012.11
	報告書(共編著)	松田亮三・土田宣明編『持続的対人援助に向けた地域資源としての大学』(共同対人援助モデル研究 10) (立命館大学人間科学研究所: 京都) 総頁143	2012.3
	報告書(単著)	「大学の個人情報保護と情報金庫について」松田亮三・土田宣明編『持続的対人援助に向けた地域資源としての大学』(共同対人援助モデル研究 10) (立命館大学人間科学研究所: 京都) pp.98-110.	2013.3
	研究発表等(共同, 国外)	“Changing Roles of Social Health Insurers in Delivering Public Health Services” (Ryozo Matsuda and Toshitaka Nakahara, The 13th World Congress on Public Health, Addis Ababa)	2012.4
	研究発表等(単独)	「貧困, 健康, 困難をかかえる患者・コミュニティへの施策と臨床的対応の探索的研究に向けて」(日本医療経済学会第16回研究例会, 於: 京都市京都私学会館)	2012.5
	研究発表等(単独)	「普遍主義の下での分断: 皆保険の変化について」(社会政策学会第124回大会, 於: 駒澤大学)	2012.5
	研究発表等(単独)	「医療政策形成におけるシンクタンクの役割—日英米の比較の試み」(医療経済研究会, 於: 東京都医療科学研究所)	2012.6
	研究発表等(単独, 国外)	“Divided and Universal: Gradual Changes in Japanese Health Insurance” (The 22nd World Congress of International Political Science Association, Madrid)	2012.7
	研究発表等(単独)	「公衆衛生サービスの日英比較分析—方法論的考察」(第53回日本社会医学学会総会, 於: 関西大学)	2012.7
	研究発表等(単独)	「大学の個人情報保護と情報金庫について」(対人援助における情報金庫・アーカイブの活用に向けて, 於: 立命館大学)	2012.7
	研究発表等(単独)	「健康政策の新たな展開—状況, 目標, 実施—」(日本医療・病院管理学会/東海病院管理学研究会共催, 日本福祉大学健康社会研究センター/厚労科研費「健康の社会的決定要因」研究(尾島)班共同企画 国際シンポジウム「介護予防・健康政策マネジメントの新潮流—社会環境や格差への着目」, 於: 名古屋市ウイंक・愛知)	2012.8
	研究発表等(単独)	「格差社会における健康の公平性の追求: 国際的経験から日本への示唆を考える」(第71回日本公衆衛生学会総会・フォーラム「健康課題に対する社会医学からみた今後の新しい健康支援方法」, 於: 山口県教育会館)	2012.10
研究発表等(単独, 国外)	“Changing roles of social health insurers in delivering public health services” (Health Systems and Policy Monitor Networking meeting, 於: ローマ サクロ・クオーレ・カトリック大学)	2012.11	
松葉 正文	論文(単著)	“Re-examining Economic Differentials and Poverty in Japan,” in: Karl Hardach (Hrsg.), <i>Internationale Studien zur Geschichte von Wirtschaft und Gesellschaft, Teil I</i> , Frankfurt am Main 2012, pp. 635-653.	2012.10
	研究ノート(単著)	「市民社会と現代日本社会: 日本近現代史の特質と関連して」(『立命館産業社会論集』48巻1号) 181-196頁	2012.6
	その他(単著)	「失業扶助制度のすすめ」(『書齋の窓』622号, 有斐閣) 49-53頁	2013.3

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
丸山 里美	著書(共著)	『フェミニズムと社会福祉政策』(杉本貴代栄編, 「ホームレスと女性の貧困」, ミネルヴァ書房) 158-177頁	2012. 9
	研究発表等 (単独)	“Attitude towards a Desirable Social Security System in Japan and Korea” (International Postgraduate and Academic Conference, 於: 立命館大学)	2013. 2
湊 邦生	著書(共著)	『アジア動向年報2012』(アジア経済研究所編集, アジア経済研究所) 70-94頁	2012. 5
	論文(単著)	「モンゴル国における対日観—体制転換による社会意識の相違に関する検討」(『立命館産業社会論集』48巻3号) 77-94頁	2012.12
	研究ノート (共著)	「Web 調査における公募型モニターと非公募型モニターの回答傾向—変数間の関連に注目して」(樋口耕一・中井美樹ほか, 『同上』48巻3号) 95-104頁	2012.12
	研究発表等 (同会・パネリスト等)	“(Session Chair) Data Analysis of 2012 Japan-Korea Cross-National Social Survey” (2013 International Postgraduate and Academic Conference, venue: Ritsumeikan University)	2013. 2
峰島 厚	著書(共著)	『障害者・高齢者総合福祉法(案)の提案にあたって—今後の運動をどうつくるのか—』(NPO 法人大阪障害者センター(障害者生活支援システム研究会)編, 「提案にあたっての問題意識」, NPO 法人大阪障害者センター) 7-12頁	2013. 1
	著書(共編著)	『いのちの権利はゆずれない—骨格提言・権利条約にもとづく障害者総合福祉法を—』(佐藤久夫・藤原精吾, 障害者自立支援法に異議あり! 応益負担に反対する実行委員会編, 第3章「骨格提言・権利条約にもとづく総合福祉法を」, かもがわ出版) 50-60頁	2013. 1
	論文(単著)	「『骨格提言』実現への新段階」(『経済』第207号, 新日本出版社) 69-77頁	2012.12
	論文(単著)	「特別分科会4 障害児入所施設の現状と今後を考える」(『全障研第46回全国大会報告集』, 全国障害者問題研究会出版部) 138-139頁	2013. 1
	研究ノート (共著)	「障害者雇用の推進方策のあり方」(岡本裕子, 『立命館産業社会論集』第48巻第1号) 197-209頁	2012. 6
	実践報告 (単著)	「人生に寄り添う実践—高齢期・終末期の実践」(『月刊きょうされん TOMO: 特集最期に寄り添う—死と向き合い, とりくむ人たち』2012年5月号, 社会福祉法人きょうされん) 12-12頁	2012. 5
	実践報告 (単著)	「福祉実践と福祉制度のありかた」(『第15回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会報告集』, 第15回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会報告集実行委員会) 127-130頁	2012. 4
	論文(単著)	「社会科カリキュラム編成」(社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』, 明治図書) 109-116頁	2012. 4
森田 真樹	書評(単著)	「書評 中山京子『先住民学習とポストコロニアル人類学』明石書店」(『社会科研究』, 全国社会科教育学会78号) 41-42頁	2013. 3
	その他(共著)	『現代国際理解教育事典』(日本国際理解教育学会編, 「国際理解教育とシテイズンシップ」「社会科と国際理解教育」「アメリカ合衆国」, 明石書店)	2012. 6
	研究発表等 (単独)	「今後の現場体験活動の方向性について考える—学校インターンシップ等の現状と課題—」(全国私立大学教職課程研究連絡協議会, 第32回研究大会, 於: 九州産業大学)	2012. 5
	研究発表等 (単独)	「中教審答申と教員養成制度改革—「学び続ける教員」を育てる学部・教職大学院教育のあり方」(京都連合教職大学院2012年度実践報告フォーラム, シンポジウム, 於: 京都市)	2013. 2

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
門田幸太郎	論文(共著)	「日本, 中国, 韓国における親の養育態度と子どもの学業志向性及び向社会的仲間志向性との関係 教育心理学フォーラム・レポート」(王松, 小石寛文他, 『教育心理学フォーラム・レポート』FR-2012-02巻) 1-6頁	2013. 1
	研究ノート (単著)	「Excelによるシミュレーションを用いた正規分布表の詳細化とVsual Basicによる累積確率の検索方法」(『立命館産業社会論集』48巻4号) 123-134頁	2013. 3
	研究発表等 (共同)	「所属した仲間集団の成員の属性と社会性発達の関連」(久木山健一・小石寛文, 日本教育心理学会第54回総会, 於: 琉球大学)	2012.11
柳澤 伸司	著書(共著)	『はじめてのメディア研究』(浪田陽子・福岡良明編, 「ジャーナリズムの歴史と課題」, 世界思想社) 71-96頁	2012. 4
	著書(共著)	『はじめて学ぶ 学校教育と新聞活用 考え方から実践方法までの基礎知識』(小原友行・高木まさき他, ミネルヴァ書房) 62-63, 76-79, 82-85, 88-95, 106-111, 114-125, 130-131, 136-139頁,	2013. 3
山下 秋二	論文(共著)	“Service quality and user satisfaction in sports facilities for disabled persons in Japan: characteristics of two different types of facilities” (Chihiro Knayama, Shuji Yamashita et al., The Journal of Education and Health Science (58巻2号)) pp217-235	2012.10
山本 耕平	著書(単著)	『ともに生き, ともに育つひきこもり支援—協同的関係性とソーシャルワーク』(かもがわ出版) 全172頁	2013. 2
	論文(単著)	「ひきこもり支援の哲学と方法をめぐって: 若者問題に関する日韓比較調査から—第2報: Yooja Salon の実践を通して」(『立命館産業社会論集』48巻2号) 1-20頁	2012. 9
	論文(単著)	「障害者福祉現場のメンタルヘルス調査(特集 新しい障害者実態調査)」(『リハビリテーション研究』153号, (公財) 日本障害者リハビリテーション協会発行) 21-23頁	2012.12
	論文(単著)	「精神科ソーシャルワーカーと精神保健福祉士養成: 新カリキュラムの狙いと, 先輩ソーシャルワーカーのねがい」(『総合社会福祉研究』41号, 総合社会福祉研究所) 6-18頁	2012.12
	論文(共著)	「大型地域災害時ノンプロ外部支援者を対象とした支援前後ケアの検討: 外部支援者の揺らぎと育ちに注目して」(深谷弘和, 『立命館人間科学研究』26号) 77-88頁	2013. 3
吉田 誠	論文(単著)	「経営労務の動向」(法政大学大原社会問題研究所編『2012年版 日本労働年鑑』82号) 170-179頁	2012. 6
	論文(単著)	「戦後初期における日産の再建危機と配置転換」(『立命館産業社会論集』48巻2号) 39-51頁	2012. 9
	書評(単著)	「書評: 辻勝次著『トヨタ人事方式の戦後史』」(『日本労働社会学会年報』23号) 159-163頁	2012.12
リム・ボン	著書(単著)	『歴史都市・京都の超再生—町家が蠢く, 環境・人権・平和のための都市政策』(日本評論社) 全213頁	2012. 8
	研究ノート (単著)	「町家再生事業のグローバル連携—ニューヨークを舞台に資金調達の可能性を探る」(『立命館産業社会論集』48巻1号) 211-233頁	2012. 6